

屋島の鳥

屋島の野鳥は多様で観察も容易です。山とその周辺で 79 種の鳥が確認されており、そのうちの 20 種以上が 1 年を通じてこの地域に生息しています。最も識別しやすい在来種の複数が崖に沿って営巣しているので、屋島の急な崖や数多くの観察スポットは、上からのバードウォッチングに豊富な機会を提供します。屋島でよく見られる鳥を以下に紹介します：

ミサゴ (Pandion haliaetus)

ミサゴは体長 60 センチ以上に成長し、翼を広げると 180 センチになる大型のタカです。白い頭と腹、こげ茶の翼で見分けることができます。ミサゴは魚を主食としており、屋島の沿岸をホバリングし、獲物を見つけたら急降下する様子を見ることができます。今でもよく見かけますが、屋島で生育するアカマツの数が劇減したことで、現地のミサゴの生息数は近年減少しています。ミサゴが営巣の木として好むマツは、マツ材線虫病という昆虫が媒介する病気の犠牲となっています。

トビ (Milvus migrans)

屋島でメジャーなもうひとつの猛禽類であるトビは、小型の爬虫類も餌にする腐食性鳥類です。飛行中に翼を羽ばたくことはほとんどなく、その代わりに山の急斜面に沿って絶え間なく上昇する気流に乗ってホバリングや急上昇をします。体は茶色で、翼は腹よりもいくらか濃い色をしています。

メジロ (Zosterops japonicus)

日本語で「白い目」を意味するメジロというこの小さな鳥の背、翼、頭は薄緑色をしています。目の周りの白い輪にちなんで名付けられたメジロは、主に昆虫や花蜜を餌とし、あえて地面に降りるよりも木に留まることを好みます。メジロの美しいさえずりはよく朝に聞くことができます。